

令和7年度第1回北部エリア補完的交通検討分科会議事録（要旨）

| | |
|--------|---|
| 会議名 | 令和7年度第1回北部エリア補完的交通検討分科会 |
| 日時 | 令和7年7月4日（金） 午後2時00分から午後3時00分まで |
| 会場 | やちよ農業交流センター第1・第2研修室 |
| 議題 | 北部エリアにおける補完的移動手段の検討について |
| 出席者 | 【委員】 鎮目委員（会長），小川委員，太田委員，毎熊委員，御厨委員， 村山委員，岡本委員，鎌田委員，櫻井氏（丸山委員代理）， 藤井委員，諏訪氏（蜂谷委員代理） 【事務局】 （都市整備部）若林部長，瀨能尾次長 （都市計画課）平野課長，多田主査，石原主査補，木暮主事 |
| 公開・非公開 | 公開 |
| 傍聴者 | 0名 |
| 議事 | 以下のとおり |

—議題の説明—

事務局

<北部エリア補完的交通検討開始の経緯>

令和6年3月に八千代市地域公共交通計画を策定し，地域にふさわしい補完的移動手段の導入を実施事業として位置付けた。計画策定時に実施した北部市民アンケートでは，買い物や通院等の日常生活には自家用車で移動しているため，不便を感じていない方が多いが，不便を感じている方も一定数いる。買い物・通院でのバス利用について，将来的な意向を含めると約76%，デマンド交通の利用意向は約65%あり，潜在的にニーズが高い。令和7年1月の交通会議において，「北部エリアにおける補完的移動手段の検討」に当たっては，分科会を設置して検討することなどの基本的な方向性を決定したことから，今回の会議の開催に至る。

<補完的移動手段検討への住民参加>

令和7年1月の交通会議で出た住民参加へのご意見

- ・実証実験にあたっては，住民に公共交通を育てていく意識をもってもらうことが重要であり，住民から協力が得られるかで実証実験の成否が決まる。
- ・高齢化率が高い地域では行政側が地域住民に任せてしまうと取り組みが難しい場合もある。

以上の内容を考慮して，北部エリアは南部エリアと比較して，人口が少なく高齢化率も高いことから，市が主体的に検討に取り組み，地域との意見交換等を開催する。また，分科会委員の協力のもと多くの方が参加できるよう周知に努め，より詳細な二

ーズを地域のネットワークやイベント等の活用により把握し、地域にふさわしい補完的移動手段となるように導入を検討する。

<補完的移動手段検討の方向性>

市民の声として

- ・ 自宅から近い乗降場所
- ・ 待ち時間の少ない交通手段
- ・ 低料金の交通手段

の3点に集約できる。

すべてのニーズに対応することは困難だが、以下の点から北部エリアの公共交通空白地域への補完的移動手段としてデマンド交通が一番マッチしている手法であると考えている。

- ・ 路線バスの停留所までの距離が遠い方は、自宅近所で乗り降りができる
- ・ 路線バスの便数が少ない方などは、都合に合わせた予約ができる
- ・ タクシーよりも低料金である

手法の選定を含めた地域との意見交換を行うことは、地域の高齢化の状況等からも制度理解や比較検証が難しいと考えられるため、実証運行時の手法はデマンド交通を前提として地域と一緒に検討を進めていきたい。

<補完的移動手段検討の方向性の概要>

手法としては、定時定路線型のコミュニティバス、公共ライドシェアである自家用有償旅客運送、デマンド交通であるデマンド型乗合タクシー、タクシー利用補助の計4つを比較している。デマンド交通とタクシー利用補助のいずれかであれば実証運行可能な見込み。

- ・ 定時定路線型のコミュニティバス

利用料金は低いが、カバーエリアが狭く、多くの路線を走らせる必要があり行政負担が高く、持続可能ではない。

- ・ 公共ライドシェア（自家用有償旅客運送）

既存のタクシー車両が不足している場合の方策であり、現状、八千代市でタクシー車両が不足している状況ではない。

- ・ デマンド交通（デマンド型乗合タクシー）

利用料金は高いが、カバーエリアが広く、様々な乗降ポイントから乗車が可能で、車両が空いていれば都合に合わせた乗車が可能である。市の財源だけではなく国や県の補助金が活用できるため、他の案に比べて行政負担が比較的低い。

- ・ タクシー利用補助

利用料金は高く、デマンド交通と比較して乗合が発生せず利便性は高い。ただし、利用者数に比例して行政負担が増加する。

<補完的移動手段検討の方向性の概要（行政負担）>

行政負担の観点でデマンド交通とタクシー利用補助を比較した結果、デマンド交通は、地域のニーズに対応しながら、地域と一緒に育てていける手段であり、実証運行時には国や県からの補助制度も活用できるため、実証運行時の手法はデマンド交通を

前提として地域と一緒に検討を進めたい。

- ・デマンド交通

車両を借り上げて運行するため、利用者がいなければ委託料がそのまま行政負担となり、利用者が増えれば行政負担が低くなる。

- ・タクシー利用補助

利用された分だけタクシー事業者に行政負担相当を支払う。利用者人数が少ないと行政負担が少なく、利用者人数が多くなると行政負担が高くなる。

<全体スケジュール>

北部エリアに補完的移動手段を導入するまでのスケジュールを10のステップで表している。

①想定手法決定、②詳細ニーズ調査、③運行内容の方針決定、④予算準備、⑤事業者選定、⑥広報活動、⑦実証運行、⑧評価・改善、⑨運賃協議分科会、⑩本格運行

本分科会で協議が必要なステップは①～③と⑦、⑧。①～③は実証運行に向けて令和7年度中に実施し、⑦、⑧は令和8年度以降に実施する予定である。①想定手法決定については本日の分科会であり、②詳細ニーズ調査については地域との意見交換を7月から8月に予定している。その後、地域との意見交換を行った結果を踏まえ、③運行内容の方針決定を9月の分科会と交通会議で行いたい。

<今後の進め方>

詳細ニーズ調査の今後の進め方として、前提条件を考慮しながら地域住民に向けて地域との意見交換を行い、運行内容の方針案を検討していきたい。

前提条件（設定理由：公共交通機関と競合しないようにするため。）

①既存公共交通の乗降ポイントと近い位置にデマンド交通の乗降ポイントを設定しない

②デマンド交通の利用料金は、公共交通機関を利用した場合より高く設定する

<地域との意見交換イメージ>

北部エリアを4つ程度に分けて、既存の公共交通やデマンド交通について説明し、地域のニーズや意見をまとめて、9月下旬に分科会と公共交通会議に結果報告を行いたい。

—委員意見等—

村山委員

睦地区は非常に範囲が広く、地域の人が日々の移動で困っているのか把握することは、非常に大変である。睦地区は、区長連合会の代表者を決めるのに北部地区、中部地区、南部地区と3つに分け、2人ずつ役員を選出した上で区長連合会の会長と副会長を選出している。3地区の役員に、地域の困っている人の相談役となっている民生委員を交えて意見交換を行えば、どこの地域が一番困っているのか、実態がわかると思う。また、旧レインボーバスの神崎線しかバス路線がなく、徐々に運行本数が減少するのではないかと懸念しており、睦地域には早急にデマンド交通を入れたほうが良いと思う。

櫻井氏

阿蘇・保品エリアでは、神野や上高野・下高野周辺についても、地元説明会の際には参加いただいた方がよいと思う。デマンド交通を市が検討していることを今回初めて知った。地域の方は、この内容について知らないと思うので、神野や上高野・下高野も交えて実施いただきたい。また、地域としては広いので、できれば2か所ぐらいに分けて実施した方がよいと思う。

鎌田委員

米本団地は他の地域と違い、人口が集中しているので、住民がデマンド交通をいかに便利だと感じてもらえるかが重要なポイントだと思う。米本団地で行う意見交換の際にはデマンド交通のメリットを最大限に強調しながらやっていきたい。利用者はたくさんいると思うので、利用者の意見を聞きながら、地域のニーズに応えるような進め方をしていただきたい。また、米本団地南自治会も、交通的には同じような地域なので一緒に進めるとよいと思う。

岡本委員

阿蘇・睦地域包括支援センターの情報があれば、困っている方がわかるので、可能であれば活用していただきたい。

デマンド交通について、帰りの予約についてイメージがつかなかったため、運用について教えてほしい。私達の方で、2週間おきに千葉ニュータウン行きの買い物支援バスの運行を行っているが、足が不自由な方は帰りの集合時間のだいぶ前に集合しており、帰りをすごく気にしている。不安要素が少なくなれば、自分ごととなり、現状で公共交通を使いきれない方々の利用促進にもなると思う。

事務局（岡本委員質問回答）

帰りの予約については、タクシー台数や、予約の時間等が影響すると考えており、事務局としても慎重に協議、検討を進める必要があると考えている。デマンド交通は、乗合型の仕組みであるため、事前に予約をする必要がある。買い物に関しては、事前に予約し時間通りに乗車いただければと思うが、通院に関しては、時間が読めないことがあり、可能な限り直前まで予約を取れるような体制を整える必要があると考えている。帰りの予約はデマンド交通を導入するにあたって重要な問題なので、実際にご協力いただけるタクシー事業者等を含めて検討したいと考えている。

藤井委員

地域に入って、具体的に交通の問題を考えることは、とてもよいと思う。デマンド交通に絞っていく方向性を示しているが、大前提として、デマンド交通というのは万能の手段ではないことをご理解いただきたい。

定時型と不定時型のどちらでデマンド交通を導入するのかで運用が異なるほか、運行エリアが広いと運用コストが高くなる等の問題が見込まれる。また、一番大きなポ

イントは北部エリア内で完結する移動なののかについて考える必要がある。地域の外に出る場合、路線バスとの関係など、どのような障害が出るのかを踏まえる必要がある。通常は、エリア内に限定した形の運用にしているが、一部自治体の中では、地域外のバス停までアクセスできるようにして乗り継いで目的地まで行けるようにしている。北部エリアのデマンド交通を、どのように地域ニーズに合わせた形にするのか。現状ではデマンド交通の活用を考えている人は少なく、すぐ運行したとしても利用者が現れるかというところが難しいが、将来的に利用者が増えた際に自治体はどのように運用していくのかという方向性も考える必要がある。デマンド交通を行うには費用がかかるので、本格運行に移行するにはどのような目標設定をするか、地域と一緒に考えていく必要がある。例えば、総事業費に対して、1人当たりどれくらいのコストがかかっているのかという見方を考える必要がある。目安としてはデマンド交通だと1人当たりコストを1,000円から1,500円程度で収めたいところである。ただし、北部エリアのような広い地域で、住居が点在している場所では先ほどの目安は厳しく、他自治体では3,000円程度で行っているケースや、中山間部では4,000円かけて運行するといった自治体もある。この地域は本当にそういった地域なのか、行政はもちろん地域の人たちも、自分たちの身の丈に合った交通をどのように考えるのかがポイントである。そのため、どこに行くのか、どんな使い方をしたいのかを考える必要がある。買い物でデマンド交通を使いたいのであれば、週1回の運行で十分なのかという話となる。週1回もしくは月・水・金曜日のみに運行する運用をしていくと、総予算としては3分の1以下まで下がる。そのような需要の集約化のようなことまで考える必要がある。そのためには北部エリアの人たちの移動が地区ごとにどう違うのか把握する必要がある。米本団地は人口がまとまっているのでそういった面では強さがある。点在しているところは、ピックアップするなかで回遊することになる。そうすると時間や距離などの運行システムは同じでいいのかというところが、当然違う。買い物にだけであれば、柏でやっている買い物支援でも十分である。今回、運行内容を検討する上で、地域がどのような使い方をしたいかという声を拾っていく作業を、ぜひ丁寧にやっていただきたい。そうしないと実証運行しても、翌年からはなくなってしまうというケースが多くある。また、タクシー事業者として稼働率の側面から北部エリアにタクシーを複数台確保できないといった場合もあるので、事業者とどのようにバランスをとるのか考えることも大切である。さらに、八千代市はタクシーチケットという形で、高齢者で要支援・要介護の方を対象に全域で移動支援を行っているため、どのように差別化をし、運用していくのか。税金として活用していく中で、併用していくという考え方を持つのかを考える必要がある。要支援・要介護になると、通常のデマンド等の利用では乗降介助をしないと使えない。その辺りの細かい部分も検討する必要がある。使い方によっては、行きにデマンドを活用して、帰りはタクシーチケットで帰る。こういったパターンは、地方都市では非常に多い。そういったことを今回のデマンド交通の運行システムの中に考えるのか、病院の帰りや帰宅時間が読めない場合、タクシー券が補完することも考えるのであれば、例えばタクシー事業者で1日借り上げ方式ではなくて、時間を区切って、単価の時間契約で9時から12時までの3時間運行して、

帰りはタクシーチケットでサポートする，そのような手法を組み合わせることもできる。

北部エリアが全域同じ運用で進めるのではなく，個別で対応できる仕組みをどう考えるかが必要である。デマンド交通を導入しなくても移動ができるエリアで，タクシー事業者も稼働率の状況から運行が難しいのであれば，住民の方たちで頑張っていたくという方法もある。柏の場合には交通空白地域はないとの前提のもと，タクシー事業者が全地域をカバーするとの思いでやっているが，実際にはスポット的に買い物支援タクシーが運行されている。何がいいかを取捨選択しながら，地域に合ったものを，交通事業者と一体でできる仕組みで考えていただきたい。様々な議論が出てきたときに，実現可能性について他市事例を踏まえながら，フォローさせていただきたい。

—採決結果—

補完的移動手段の手法はデマンド交通として，地域との意見交換を進め，地域との意見交換の今後の進め方については，地域の委員のご協力をいただき，地域にあった進め方をしていくことで可決。

—次回会議—

事務局

地域との意見交換を経て9月の開催を見込んでいるが，進捗状況により変動する可能性がある。改めて事務局より連絡する。